

# 平成31年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本校では、学校教育目標である「自立と社会参加」を目指し、特別支援学校としての特性を生かした教育活動の充実に努めている。具体的には、児童生徒一人ひとりの確実な実態把握と複数の教員による多面的な理解に基づき、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、保護者と連携した教育実践を進めている。また、特別支援教育のセンター校として専門的な指導や相談に応じることのできるよう教職員の資質の向上に努めている。

## 学校教育に関する重点取組

<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</b> (1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.1	3

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、個別の教育支援計画の内容の検討を通して、発達段階等、正確な実態把握、繰り返し学習、スモールステップ等を指導支援のキーワードに課題を共有し、自立と社会参加に向けた主体性を育成している。</li> <li>・iPad、視覚支援、マカトンサイン、視線入力装置等、様々な補助手段を活用し、興味関心を持たせながら一人ひとりの力が発揮できるよう、個々のニーズに応じた授業を展開している。</li> <li>・摂食指導を本校の教育活動における重要な柱と位置付け、食形態や量の工夫、アレルギー除去食等、個々に応じた食事を提供し、摂食にかかる成長を促すとともに、教職員の指導力の向上に取り組んでいる。</li> <li>・昼食時を含む学校生活全般での医療ケアについて看護師と連携を図るよう努める。</li> <li>・必要に応じ、医療機関(主治医、PT、ST、OT等)とのカンファレンス、訓練見学等の取り組みを行い、児童生徒の健康管理と生活能力の向上に努めている。</li> <li>・昼食時を含む学校生活全般での医療ケアについて看護師と連携を図るよう努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態・教育的ニーズに応じた学習を進めるため、個別の指導計画を活用し、個々の発達段階と実態把握及び学習の取り組みの経過が学部が変わっても滑らかにつながるよう、学部間の引き継ぎ体制と連携をさらに強化していく必要がある。</li> <li>・児童生徒の課題や実態について、学部や学年の中での共通理解を図り、できるだけ同じ対応をすることで児童生徒の成長が見られている。</li> <li>・様々な補助手段を、それぞれの実態に応じた教材として活用し、持てる力を最大限引き出すよう努めている。児童生徒は、興味関心を持って、積極的に取り組むことができ、主体的な活動にも結びついている。今後は、研修の機会を作り、全教職員が活用できるよう取り組むことが必要である。</li> <li>・外部講師による摂食指導研修での助言をもとに、指導方法を見直し、より適切な摂食に繋げることができている。今後も、教員の知識やスキルを向上させる必要がある。</li> <li>・アレルギー対応について研修を進め安全な給食の提供ができている。</li> <li>・医療機関や専門機関、主治医との連携により、児童生徒の健康に配慮が行き届き、指導の充実が図れている。</li> <li>・医療ケアを実施する時は、担任、養護教諭、看護師の複数の者がチェックする体制をつくり、ミスを防ぐ努力をし、安全面について十分配慮を行っている。</li> <li>・高度な医療的ケアが必要な児童生徒が増えてきており、看護師との連携が必要であるが、契約等のこともありスムーズに行えていない部分もある。更に関係作りを深めていく必要がある。</li> </ul>

<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b> (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.1	3.5

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任コーディネーターを中心に、少人数の「育成会議」を開催し、児童生徒事案についての情報の共有化を図るとともに、その対応を検討できている。</li> <li>・学習面・生活面で児童生徒がお互いに意識し関わりがもてる環境を設定したり、体験的な学習を取り入れたりすることで、自己選択・自己決定の機会を設け、自己肯定感を高める指導支援を行っている。</li> <li>・保護者と連絡帳や電話などで日々の連絡を密にし、質問や相談に素早く対応し、学年・学部の教員間で共通理解するなど、信頼関係の構築と連携の強化、児童生徒の内面理解に努めている。</li> <li>・進路専任教員を配置し、全学部でキャリア教育に取り組めるようにするとともに、保護者に向けて福祉制度の学習や福祉施設の見学会を実施し、子どもの将来を一緒に考え、高等部卒業後への意識を高めるよう努めている。</li> <li>・高等部2年生の3学期に、本人・保護者と関係者で進路調整会議を実施し、高3及び卒業後に向け、意識を高めるよう取り組んでいる。</li> <li>・高等部3年生の進路に向けて、市教委、福祉事務所、事業所を交えた移行支援会議を開き、学校での取組みが継続できるよう働きかけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成会議において、個々の様々な課題を共有し、課題解決にむけた取り組みができてきている。</li> <li>・自己選択・自己決定の機会を設けることで、児童生徒の自己肯定感が高まり、積極的にコミュニケーションを取ろうという意識が高まっている。</li> <li>・保護者と日々の連携を密に図ることで、相談しやすい雰囲気醸成され、児童生徒の成長にも良い影響を及ぼしている。</li> <li>・進路を見据え、文書や会議等で教員間の指導についての検討は行われているが、学部間の引き継ぎや連携について更に充実を図る必要がある。</li> <li>・高等部卒業生の進路指導において、担任や進路専任を中心にして、生徒へのよりよい支援のために保護者や進路先との連携を図ることができた。</li> <li>・移行支援会議において、丁寧な連携を行うことで、卒業後の充実した生活に結びつけていることができています。</li> </ul>

<b>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.2	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前施設や卒業後の入所、通所施設との関係強化を図り、一貫した指導体制の構築や研修を通じた教職員の資質向上に取り組んでいる。</li> <li>・保護者アンケートを実施し学校評価の充実と改善に取り組む。</li> <li>・保護者との信頼関係を深めるため、担任だけでなく、管理職自らも保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。</li> <li>・教育実習生等の受け入れや学校見学者等の受け入れを積極的に行い、本校の教育についての広報活動を進める。</li> <li>・携帯メール配信、学校HP、学校便り等を充実させ、学校の様子を積極的に知らせていく。</li> <li>・複数担任制の導入で、保護者が学校に相談しやすい環境を作る。また一人一人の子どもをより多くの教師の視点で見守り手立てとする。</li> <li>・地域校や学校間での交流及び共同学習を推進し、児童生徒に多様な学びを経験させ、社会的自立に向けた取組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設が行う研修・見学会に教職員が進んで参加することにより、連携の強化と職員自らの研鑽に役立っている。</li> <li>・保護者アンケートを実施することで、学校との信頼関係が深まり運営改善に役立っている。</li> <li>・担任が保護者とときめ細かな連絡をとり、管理職への報告も的確になされている。</li> <li>・特別支援教育への関心の高まりとともに来校者も増加している。教育実習、介護等体験、初任者研修、教育講演会等、年間を通して様々な受け入れを実施している。本校を知ってもらい取組みでもあり、今後も続けていくことが大切である。</li> <li>・市内中心部へ移転したことで、これまで以上に、様々な交流及び共同学習や周辺地域の方との連携が図れるよう、更に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.2	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対応マニュアルを策定し、マニュアルに基づく訓練を実施することにより安全確保と危機管理意識の高揚を図る。</li> <li>・緊急体制の見直し、インシデント・アクシデント報告の活用により、事故防止に努めるとともに緊急時の体制整備を図る。</li> <li>・登下校バスでの危機管理・対応の徹底に努める。</li> <li>・日常生活や登下校時のバス等、全教職員で共通理解を図りながら、安全面に十分配慮している。</li> <li>・校内防災組織を再考し、各担当ごとの会議を進める中で、火災避難訓練を実施し、職員の防災意識の高揚が図られてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデント・アクシデント報告の活用による事故防止を進めている。今後も必要に応じ緊急時体制を見直し・改善を図る必要がある。</li> <li>・全教職員が共通理解を行い、常に安全面を意識しながら学校生活全般において取組みを進めることができている。安全面に関して、アンケート等を通して生活介助員、バス乗務員との意見交換を行い、引き続き、緊急時の対応マニュアルや指示系統の徹底を図る必要がある。</li> <li>・火災避難訓練では防災組織各班ごとの事前事後の検討により、工夫改善を図った。新校舎での避難場所について課題が残っている。</li> </ul>	

<b>教育目標</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	3	3
<b>(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開</b> <b>(2) 教育目標の具現化と指導の充実</b>		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教育活動において「自立と社会参加」を掲げ取り組んでいる。自立は、一人ひとり違うが、「身辺自立」「自己選択、自己決定」「コミュニケーション力」が重要であると捉えて、学校生活全般で取り組んでいる。</li> <li>自立と社会参加、生きる力をキーワードに体験学習を取り入れることで、わかりやすく実践的な学習が実施できている。</li> <li>行事などの折りに管理職から教育目標に沿った発言をすることで、全教職員が学校の教育目標をより意識し、共通理解を深め、教育活動につなげることができた。</li> <li>一人一人の児童生徒への対応をきめ細かく実施しており、基本的な生活習慣を含めて自立を促進する対応を行っている。ほとんどの児童生徒が学校へ行く事を楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重度重複児にとって目に見える形での自立は難しい面もあるが、それぞれの課題にスモールステップで取り組み、子どもの少しの変化や成長を保護者と共に喜び称えることで、更なる成長へつなげていく必要がある。</li> <li>体験的な学習は、子供たちにとって、直接的でよりわかりやすいので、今後も様々な取り組みを行っていく。</li> <li>今後も、全教職員が教育目標を理解し、それぞれの学部ごとの目標を一人ひとりの活動にスモールステップで取り組んでいく。</li> <li>一人一人の児童生徒への対応をきめ細かく実施しており、基本的な生活習慣を含めて自立を促進する対応が行われている。多くの児童生徒が学校へ行く事を楽しみにしている。</li> </ul>

<b>研究テーマ</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	3.1	3
<b>(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開</b> <b>(2) 研究テーマの具現化と指導の充実</b>		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に研究テーマについて教職員全体で共通理解を図り、組織として研究を重ね、指導支援に生かす。</li> <li>公開授業や一人一授業の機会を捉え、必ず事後検討を行うことにより研究の成果を相互に共有しあう場としている。</li> <li>講師を招聘しての研修会を16回実施した。そこで学んだことを日々の実践に確実に生かすことが出来ている。</li> <li>校内講師による新転任研修会を18回実施し、新転任者の資質向上並びに専門性の向上に生かすことができています。</li> <li>2月に、市内向けの授業公開及び講師による研修会を実施した。市教委の指導主事を含め外部から20数名の来校者と共に学びを深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究部を中心に、研究テーマに基づき、授業研究、全体研修会、自主研修会、新転任研修会のカテゴリで教職員の資質向上を図っているが引き続き様々な観点からの研究・研修を行っていく必要がある。</li> <li>外部講師、校内講師による研修会を実施し、教職員の資質向上に努めており、引き続き行う必要がある。</li> <li>新転任研修会を充実させているが、2年目3年目の教職員の更なる専門性の向上に向け、繰り返しの研修も必要である。</li> <li>公開授業等、お互いが授業を見合えるような工夫が必要であるが、自習等が難しく、今後検討が必要である。</li> </ul>

<b>センター的機能の充実</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	3.1	3
<b>(1) これまで蓄積してきた専門性やノウハウを生かした、地域の学校への支援の充実</b> <b>(2) 教育課題の解決や特別支援学校としての今後の方向性をテーマとした研修・研究の充実</b> <b>(3) 児童生徒に対する生活・学習支援等の改善に向けて校内研修を実施し、地域支援にも生かせる専門性の向上</b>		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で実施している講師を招聘しての全体研修会の際に、小・中学校や近隣の特別支援学校教員の参加を呼び掛けるなどセンター校としての情報発信を行っている。市内移転後の参加者は、若干増加している。</li> <li>市内の小・中学校に対して巡回相談を行い、これまで蓄積してきたノウハウの提供を進めている。</li> <li>市障害福祉課の方を講師に招き、保護者向け福祉講演会を主催し実施した。市内小・中学校、高校、阪神特別支援学校等の外部から、約65名の参加があり、本校保護者、教職員と共に学びを深めることができた。</li> <li>兵庫県震災・学校支援チームEARTHのメンバーを講師として防災教育研修会を実施した。市の災害対策課・障害福祉課・社会福祉事業団・社会福祉法人等から約15名の参加があり、本校教職員と、防災について、福祉避難所について等、情報共有ができ、今後の対応について考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の取り組みを広く情報発信し、研修会の参加を呼びかけたり、巡回教育相談に応じることで、センター的な役割を実践しているが、参加人数や件数等を、今後更に広げていく必要がある。</li> <li>保護者向け福祉講演会は、多くの方の関心があり参加者が多かったことを考えると、今後も継続していく必要がある。</li> <li>防災研修会の参加者が様々な役割の方々であり、今後も共に研修をしていく必要を感じている。</li> <li>校内支援や校外支援を専任コーディネーターと学部コーディネーターを中心に行っているが、若手教員が増加する中、次期コーディネーター候補の育成が必要である。</li> </ul>